

# 生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成

—第5学年「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」の指導を通して—

## 東温支部

### 1 研究の視点

- (1) 子どもの主体的な学びを促す問題解決的な学習指導の工夫
- (2) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

### 2 実践事例

- (1) 題材名 持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方
- (2) 目標

- 物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について理解し、購入に必要な情報の収集や整理が適切にできる。
- 物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

- (3) 題材設定の理由

- 東温市の研修体制について

東温市は、松山市の東に位置し、小学校7校、中学校2校という小さな市であり、小学校7校のうち4校は小規模校である。そのため、各校での研修が深まりにくい反面、小・中の交流を含めて学校間での連携が図り易いという利点がある。

今年度は、「C 消費生活・環境」のうち今回の改訂で新設された「買物の仕組みや消費者の役割」について、7校で協力して研究に取り組むことにした。5年生の題材「持続可能な暮らしへ物やお金の使い方」を取り上げ、題材構成や授業展開モデルを作成し、各校で実践することになった。

- 題材と児童の実態について

本題材は、資源や環境を大切にするよりよい生活を目指して、「持続可能な社会の構築」などの視点から、課題をもって、物や金銭の使い方と買物について考えていくことをねらいとしている。近年、本市では商店が近くにない地域が増えてきており、実際に金銭の受け渡しをして買物をするという経験が乏しい児童が増えてきている。また、インターネットの広がりにより購入や支払い方法も多様化しており、児童の生活体験も家庭によって大きく違ってきている。物や金銭の使い方と、買物や環境に配慮した生活についての知識の差も大きいことが考えられる。そのため、生活から課題を見いだして自分に合った課題を設定することや、適切な解決方法を見付けることが難しいと考えられる。

- 指導について

本題材の導入部分では、「お金が使われる場面」に対する児童の考え方の違いを分かり易く提示するためにICTの活用を試みる。タブレット端末の機能を使い、一人一人の友達の考えを可視化して図や文として示すとより理解しやすくなり、意欲的な学びにつながると思われる。友達と考えを発表し合う中で、身近な物の選び方や買物の仕方について課題を見いだすことができると考える。また、問題解決・実践活動の段階では、実感を伴った理解を促すために外部講師を招いて買い物の疑似体験を取り入れる。実際に自分が考えて品物を選択することで、自分なりの理由をもたせて「買い物ゲーム」に取り組ませたい。最後の評価・改善の段階では、家庭生活での実践化に向けての一つの例として「みつろうラップ作り」を体験させ、環境や資源に配慮した物の選び方や買物の仕方について考えさせたい。

これらの活動を通して、自分の生活を振り返り、消費者であることを自覚しお金や物をどのように選んだり使ったりしていけばよいかを考え、持続可能な社会を作っていくために何が必要なのかを見だし、それらの解決に向けて工夫・改善し実践しようとする態度を育てたい。

## (4) 指導と評価の計画

| ステップ           | 時間 | 学習内容   | 主な学習活動  | 評価規準（評価方法）   |
|----------------|----|--|---|--|
| 1<br>課題発見      | 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の役割を考え、物を手に入れるためのいろいろな方法を見付ける。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活においてお金が使われている場面をイラストから見付け出し、ICTを活用して自分や友達の考えを可視化し、共有する。</li> <li>消費者として、自分の考えで物を選び、管理し、その物のよさを生かして大切に使うことを確認する。</li> <li>自分自身の消費生活を見つめ直し、課題を見付ける。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。（発言・記録）<br/>【知識・技能】</li> <li>身近な物の選び方や買い方について、さらに環境に配慮した生活について物の使い方などに問題を見いだして課題を設定している。（発言・記録）<br/>【思考・判断・表現】</li> <li>自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、その使い方に関心をもっている。（発言・記録・行動観察）<br/>【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>     |
| 2<br>課題解決・実践活動 | 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に合った選び方、買い方ができるようになる。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>買物の際にどの場面で売買契約が成立するかを考える。</li> <li>これまでの買物について、買物の方法や支払いについて話し合う。</li> <li>買物の場面を想定して、情報を集め、整理し、何を選ぶか決める。</li> <li>買物の疑似体験学習に取り組む。</li> <li>買物の記録や振り返りの大切さを考え、これからの買物で気を付けたいことや工夫したいことを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物の選び方、買い方を理解していると同時に購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。（発言・記録）<br/>【知識・技能】</li> <li>物についての情報を活用し、目的に合った選び方や買い方を自分なりに工夫している。（記録・行動観察）<br/>【思考・判断・表現】</li> <li>家族の一員として、物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。（発言・記録・行動観察）<br/>【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> |
| 3<br>評価・改善     | 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>上手な物の選び方、使い方を生かして、環境や資源に配慮して生活を工夫する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>物を選ぶときや買物をするとき、どのように環境や資源に配慮して生活をしているかについて、工夫していること、これから工夫したいことをまとめる。</li> <li>（環境学習）「とうおん e-program みつろうラップ作り」に取り組む。</li> <li>今までの学習を振り返り、自分らしい生活の工夫を考える。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した生活について物の使い方などの課題解決に向けた一連の活動について考えたことを表現している。（発言・記録）<br/>【思考・判断・表現】</li> <li>これまでの学習と自分の生活を振り返り、物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について工夫・改善し、実践しようとしている。（発言・記録・行動観察）<br/>【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul>  |

## (5) 活動の実際

### ア 子どもの主体的な学びを促す問題解決的な学習指導の工夫

#### (ア) 題材構成の工夫

主体的・対話的で深い学びを保障するために、課題発見（ステップ1）、課題解決・実践活動（ステップ2）、評価・改善（ステップ3）の三つのステップで題材を構成した。ステップ1では、消費者の役割について考えた。物を手に入れるための方法を知り、自分自身の消費生活を見つめ直すことで、物やお金の大切さに気付き、その使い方に関心を持つことができた。主体的な学びを促す課題設定にするために、タブレット端末を使い、実際にどのような場面でお金が使われているか気付かせた。そして、それを基に情報交換する中で問題意識を深めた。

ステップ2では、売買契約の成立を理解し、買物の方法や種類、支払い方法を確認したり買物の手順に沿って上手な物の選び方について考えたりしながら、買物の計画を立て実践化に結び付ける。そのために、東温市消費者生活相談窓口の方を外部講師として招き、ロールプレイング等の活動を通して、お金をより有効に使う方法についての知識を広げ、実践化へとつなげた。さらに、家庭へのインタビューを行い、家族が買物をするときの注意点や環境に配慮して実践していることを知り、家族の一員として自分も今までの生活を見直すための課題に気付かせていった。

ステップ3では、環境や資源に配慮した物の選び方や買物の仕方について意見交換を行うことで家庭生活での実践意欲を高め、一人一人が何を選ぶかが持続可能な社会を作ることにつながることに意識を深めさせた。東温市では、毎年5年生の全児童を対象にした「とうおん e-program」という環境学習が行われている。今年度は、みつろうラップを作ったり、気象実験から環境を考えたり、東温市の身近な生き物から生物多様性について学んだりするプログラムが計画され、各学校で実施されている。それらの活動の中で、最も家庭生活に関係が深い「みつろうラップ作り」と関連させながら、環境や資源に配慮した物の選び方や暮らし方についての考えを深めさせた。また、実際に家庭生活で取り組んだことを学校で紹介したり、友達の取組を聞き、自分の生活に取り入れたりして自分らしい生活の工夫を考えさせた。プラスチックゴミを減らそうと考えた児童が、給食の片付けのときになるべくナイロン袋を使わないようにする方法をみんなに呼び掛けるなど、家庭や学校でゴミを減らす行動をとる様子が見られ始めた。

#### (イ) 導入におけるICTの活用

多くの児童は、自分たちが毎日様々な物やサービスにお金を払って生活をしている消費者であることに対する意識が薄い。また、一人一人の生活様式や背景も異なるため、物やお金に対する価値観や認識も多様である。そこで、題材の導入において、児童がもっている多様な考えを可視化することにより、一人一人の新たな気付きを促し、考えを「深化・拡充」させることをねらい、ICTを活用した指導を試みた。

児童のタブレット端末に教科書のイラストデータを配付し、お金が使われている場面に印となるスタンプを置かせた。児童は、これまでの自分の経験を基に、お金が使われているだろうと思う場面に意欲的にスタンプを置いていった（写真1）。

その後、各々が置いたスタンプを教師が集計し、テレビに提示した。自分が置いていない場面にスタンプが置かれている児童は、自然と「なぜ、この場面にお金が使われているのだろう。」と疑問をもっていた。

そこで、グループになり、「物」と「サービス」のそれぞれの視点からお金が使われている場面について話し合わせた。自分や友達ももっている疑問について話し合うことで、相手の考えに納得したり、新しい考えに気付いたりすることができた。

「物」や「サービス」、「お金」に対する理解を深めた後、「限りあるお金や物を大切に使うために工夫できること



<写真1 スタンプを置く児童>



<写真2 自分の考えを書き込む児童>

は何だろうか。」と発問をし、消費者としてお金や物と上手に関わるための方法について考えさせた。その際に、タブレット端末を使って、自分の考えをムーブノート（協働学習支援ソフト）に書き込ませた（写真2）。意欲的に取り組む中で、「本当に必要な物かどうか考えてから買うとよい。」や「無駄遣いをしない。」「譲れるものは誰かに譲ってゴミにならないようにする。」といった学習の本質に迫る意見も見られた。このソフトは、相互に自分たちの考えを見ることができるようになっており、「自分と同じ考えだ。」や「自分とは違う考えだ。」など、自他の考えを比較・検討しながら、本時の学習内容の理解を深めることができた。

このように、ICTを効果的に活用することで、児童は今まで以上に意欲的に学習に臨んだ。そして、多様な考えに触れる中で、目的に合った物の選び方や買い方の工夫について理解を深めることができた。自分も消費者の一人だということに気づき、主体的にどのように生活を変えていけばよいかについて自分なりに課題を持つことができた。

(ウ) 家族へのインタビュー

ステップ2の過程で、買い物の疑似体験に取り組んだ後、児童の家族に「買物をするときの工夫」や「環境や資源に配慮していること」などのインタビューを実施し、実生活との関連を図った。環境への意識の高い回答が数多くあり、家族で一緒に買物に行った児童からは、「いつもこんな風を選んで買物をするのは、大変だと思った。」「わたしもちゃんと品質表示を確認し、よく考えた買物をしたい。」等の感想があり、主体的に生活をよりよくしようと工夫する意欲の向上につながった。

イ 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

(ア) 外部講師の活用

前時までに、売買契約の成立、買物の方法や種類、支払い方法について確認し、商品を選ぶ視点について学んできた。家庭で実践する前に、実感を伴った理解を促すため、東温市消費者生活相談窓口から講師を招いて、買物疑似体験「SDGsカレー買物ゲーム」を取り入れた。「食品ロス」問題について知り、『『もったいない』をへらすためにできることを考えよう』という課題のもと、カレーの材料を購入する設定で一人一人が商品選択の意思決定を行った（資料1.2）。児童は、国産品や輸入品、消費期限の違いなどを吟味し、どの種類を買えば安心なのか、食品ロスをどうすれば減らせるのか、「考えながらの買物」に取り組んだ（写真3）。選んだ理由は「今食べるものなら、消費期限が今日でも構わない。」「少しでも被災地の人の役に立てるならそれを買いたい。」など、値段よりも産地、量よりも品質や被災地支援等にこだわって商品を選んでいる児童が多く、食の問題への意識が高まっていた。

|   |  |
|---|--|
| <p>しょうけん おでん<br/><b>条件1. 値段は1000円まで。</b></p> <p>しょうけん<br/><b>条件2. 4~5人分、食べられるようにすること。</b></p> <p>しょうけん<br/><b>条件3. 肉は、牛肉か豚肉のどちらかをえらぶこと。</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーク□□□□□□・ゴミ</li> <li>・表示(ひょうじ)□・食品ロス</li> <li>・値段(ねだん)</li> <li>・新鮮さ(しんせんさ)</li> <li>・環境(かんきょう)</li> <li>・品質(ひんしつ)</li> <li>・量(りょう)</li> <li>・産地(さんち)</li> <li>・消費期限(しょうひきげん)</li> <li>・被災地支援(ひさいちしえん)</li> <li>その他の理由は手書きで書きましょう。</li> </ul> |
|---|--|

<資料1 買物課題>



<写真3 商品選択する児童>



<写真4 振り返りの様子>

お店にカレーの材料がなっています。3つの中から1つ選んで買物しましょう。  
※お肉は、牛肉か豚肉のどちらかを選みましょう。選んだ商品に□をつけましょう。

|                                  |                                  |                                   |
|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| ①牛肉<br>200g□伊予牛<br>500円          | ②牛肉<br>200g□国産<br>400円           | ③牛肉<br>200g□外国産<br>200円           |
| ①豚肉<br>消費期限：ぎょう<br>200g□<br>250円 | ②豚肉<br>消費期限：あした<br>200g□<br>300円 | ③豚肉<br>消費期限：あさって<br>200g□<br>350円 |
| ① 愛媛県産<br>□ 4個<br>200円           | ② 被災地支援<br>□ 4個<br>200円          | ③ 北海道産<br>□ 4個<br>160円            |
| ① 愛媛県産セット<br>2個<br>150円          | ② 有機栽培セット<br>2個□□□<br>200円       | ③ お箱用セット<br>3個<br>200円            |
| 1本<br>100円                       | 1本<br>150円                       | 3本<br>200円                        |

<資料2 選択するカード>

授業終盤には、SDGs に関しての日本の現状を聞いて「持続可能な社会の構築」の重要性を確認し、自らの消費生活と環境を結び付けて考えた（写真4）。

<授業の振り返り>

- 食品ロスが海などの環境汚染につながっていることを知って悔しい。
- 自分ができることから実践したい。
- 自分のことだけでなく、周囲のことを考えながら商品を買いたい。

体験的な活動を取り入れることにより、身近な物の選び方、買い方についてのポイントを理解し、購入するために必要な情報の収集・整理の仕方の基本を経験することができた。また、一人一人の活動を持続可能な社会の構築につなげようとする意識の深まりも感じることができた。

(イ) 環境や資源に配慮して生活する工夫への取組

児童はこれまでの学習で、「今のペースで消費活動を続けると、100年以内に地球の資源はなくなって、人間は生活できなくなってしまうかもしれない。」という切実な危機感をもち、地球上に住む一人として行動を改めていこうという課題意識が芽生えてきた。また、SDGs（持続可能な開発目標）について知識を広げ、自分たちにできることを考えようとする気持ちも高まってきている。そこで、東温市主催の環境学習「とうおん e-program みつろうラップ作り」を通して、環境や資源に配慮した物の選び方や買物の仕方について考えるとともに、家庭生活での実践を目指した（資料3）。

みつろうラップ作り



【みつろうラップについて】

ミツバチの蜜を使っている。

洗って何度でも使える。

食品を包んだり皿やコップの蓋にしたりするなど、食品用ラップフィルムの代わりになる。



海洋汚染の原因になっているプラスチックごみを減らすことにつながる。

【関係している SDGs の目標】

12 つくる責任 つかう責任…ものを作るときに出る有害な化学物質が水や空気を汚さないように管理すること、ごみを減らすことを目指す。

14 海の豊かさを守ろう…海の汚染を減らし、海からの資源を持続可能に利用できることを目指す。

【材料】

- みつろう
- 布（綿 100%）
- クッキングシート
- 新聞紙
- アイロン



ミツバチが受粉してできた作物は世界に約 70 種類以上ある。ハチがいなくなると多くの食べ物がなくなってしまうんだね。

ハチなどの小さな生き物が人間と深く関わっていることに驚いた。地球温暖化を止めなければいけないな。

【作り方】

- 1 新聞紙の上にクッキングシート・布を置き、みつろうを全体に乗せる。
- 2 アイロンをかけ全体にみつろうが染み込んだら乾かして完成。

<資料3 とうおん e-program みつろうラップ作り>

体験活動後、児童からは、「家族とみつろうラップを使ってみた。少しでもプラスチックごみを減らし、環境を守る行動につなげたい。」「食品を包んで保存できることを家族に教えた。」と、実践したことをたくさん聞くことができた。また、その後の授業で、暮らしの中でどうすれば持続可能な社会に貢献できるかを話し合い、「私たちのSDGs」を作成した（資料4）。

学習を通して、一人一人が適切に物を選ぶことが持続可能な社会を作ることにつながるという

意識を深めることができたと感じる。

#### 物を買うとき

- ・環境にやさしい商品を選ぼう。
- ・プラスチック製品をできるだけ買わないようにしよう。
- ・エコバッグを持ち歩こう。
- ・買うときは包装をできるだけシンプルにしてもらおう。
- ・期限切れに近いものや訳あり野菜も買おう。できるだけ地元で採れたものを買おう。

#### 食事のとき

- ・無駄のないように上手に料理しよう。
- ・食べきれないものは注文しないようにしよう。
- ・余った食べ物は保存して、後日食べよう。

#### 家にいるとき

- ・ごみの分別をしっかり守ろう。リサイクルを心がけよう。

### <資料4 私たちのSDGs>

(参考文献) 本田亮「ムズカシそうなSDGsのことがひと目でやさしくわかる本」小学館2021年

## 3 成果と課題

三つのステップで題材を構成したことにより、環境や資源に配慮したよりよい買物の仕方を家族と共に考えるなど、子どもの主体的な学びを促すことができた。特に、ステップ1「課題発見」において、タブレット端末を活用し、児童がもっている多様な考えを可視化することによって、一人一人が新たな気付きをもち考えを深める様子が見られた。ICTの効果的な活用により、主体的な学びを促すことができたと考える。また、家族へのインタビューを実施したことは、家族の環境に対する意識の高さを知り、自分も主体的に生活をよりよくしようと工夫する意欲の向上につながった。

外部講師を招き、買物疑似体験学習を行ったことは、「もったいない」を減らすためには、産地や消費期限などにも気をつけながら買物をする必要があることを知るなど、実感を伴った理解を促すことにつながった。学習後は、自分自身の家庭生活にも生かしていきたいという意欲をもつことができた。特に、ステップ3「評価・改善」での「みつろうラップ作り」は、学校で学習した知識を家庭生活での持続可能な社会を作るための実践につなげる取組の一つとして効果的であったと考える。

課題として挙げられるのが、自分たちにできることをするという児童の高まった気持ちを、持続させることである。課題の解決に向けて主体的に取り組む姿勢は見られたが、振り返って改善し、さらに生活をよくしようと工夫するところの指導が十分ではなかった。日常生活において、環境や資源に配慮した物の選び方や買物の仕方を考える機会を捉えて話題にするなど、児童の意識を持続させるための指導の工夫が必要である。

実践的・体験的な活動を充実させるためには、専門性のある外部講師の活用が有意義である。ねらいや内容を明確にしなが、外部講師との連携をうまく図っていくことが肝要である。

今後も、東温市内の学校間の連携が図り易いという利点を生かしなが、児童の主体的な学びを促す学習指導の在り方について研究していきたい。